

映画

無名の人

—石井筆子の生涯

2006 / 87分 / 日本

石井筆子は、明治から昭和にかけて女性が自立できる教育の必要性や人権に基づいた男女平等を訴え、かつ社会的弱者の教育・人権・確保に力を尽くした女性です。II文久元年(1861)長崎県に生まれ、12歳で上京。外国語を含む高等教育を受けます。そして在留外国人との交流、来日した米国大統領に拝謁、フランス留学、鹿鳴館での経験などから開明思想に目覚めていきます。その後結婚。しかし子どもや夫との死別という不幸にみまわれます。一人残った長女が知的障害であったことから、次第に社会的弱者のための活動をしていきます。「滝野川学園」(現存)の創設、運営に84歳で亡くなるまで全力を注ぎましたII石井筆子は、自らの信じることを実践し通した素晴らしい女性です。

上映後、宮崎信恵監督より女性が映像の世界に関わるには、多くの難題があったとかがいました。貴重な映像を見られましたことに深く感謝を申し上げます。(木下)

講演

防災対策のススメ

〜女性の視点から〜

講師 あんどうりすさん

(アウトドア流
防災フアンリテーター)

防災対策として重要なのは、普段から、それぞれの立場や状況を認め合える地域を作っていくことです。女性や子ども、高齢者などの弱者にやさしい地域は、防災にも強いのだそうです。

地震が起きたときは、マニュアルがすべて正しいと思わず、臨機応変に対応することが大事です。逃げた方がいいのか、その場にいた方がいいのか、その判断が自分の命を守ることにあります。

災害は、いつどこで起こるかわかりません。日常的に持ち歩いているバッグに入れておくといよいよ防災グッズも、教えていただきました。他にも常備しておくといよいよもの、それらの活用法や、代用できるものなどの紹介もありました。また、携帯電話の緊急地震速報を、受信できるよう



講演の様子

にしておくことを勧められていました。連絡手段としては災害伝言板の登録の他、連絡がとれなくても落ち合う場所を決めておくといよいよそうです。

後半は、救助の実技として、古武術を使って少しの力で人を動かしたり、起こしたりする方法も、教えていただきました。

参加された方たちは「今から実践できることがたくさんあった」「日常生活の中で取り入れていきたい」「マニュアルに頼らず自己判断が大切」などの感想を話されていました。(片寄)

朗読

詩人

「石垣りん」を読む

読み人 市民

アイレックまつりのトップは、昨年好評だった市民の皆さんによる朗読会から始まりました。

詩集『私の前にある鍋とお釜と燃える火』は戦後出版され、石垣りんの代表作となりました。

詩集はわずか4冊ですが、素朴な表現で家と社会の問題に鋭く切り込む作品の数々は、戦後初めて出現した「働く女性の詩」として、新しく生まれた若い人々からも共感を持って迎えられました。石垣りんは言う。「戦後

女性は解放されて、男女同権が唱えられた」が「男たちの既に得たものは、本当に、すべてうらやむに足るものなのか。女のしてきたことは、そんなにつまらないことだったのか、という疑いを持ち続けていた」と。

来場者からは、読み人が選んだ詩に自らの思いを寄せて語ってくれたのが、とても心に残ったと、大好評でした。(伊藤)



全員で朗読

音楽

音楽の夕べ

演奏

清瀬管弦楽団メンバー

100名近い参加者で会場はほぼ満席。まず始めは、ピアノと管楽器によるアンサンブルで、アイランド民謡など4曲をな

つかしく聞きました。続いて全員で体を打楽器に見立てた「ポディーパークション」体験。なじみがなく、始めはぎこちなかったのですが、全員が同じ目的に向かって楽しんだので、一体感が生まれ、皆笑顔でリラックスすることができました。バイオリンの伴奏で歌うコーナーでは「ふるさと」を温かい気持ちで合唱しました。また、アンコールの「水色のワルツ」は心穏やかに夢心地にしてくれる一曲でした。

20人近いメンバーによるNHK大河ドラマ「江」や「くるみ割り人形」の演奏を目の前で聴いた時には、管弦楽の迫力と、それぞれの楽器の音色に感激し、あっという間に時間が過ぎてしまいました。(安達)



音楽を聴き入る参加者

バザー用品提供のお礼

72号でお願いしましたバザー用品の提供につきまして、たくさんのご協力をいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで、バザーは盛況のうちに終了することができました。売上金は、アイレックまつりの運営に活用させていただきます。



バザー会場の様子